令和4年度第11回農業委員会総会議事録

開会月日	令和5年2月27日(月)	開議の時刻	午前10時05分			
場 所	松山市民活動センター2階 大会議室	閉議の時刻	午後0時23分			
議 長	東松山市農業委員会長 野村 孝行					
委員の出席状況						
農業委員	席次番号	氏 名	摘 要	席次番号	氏 名	摘 要
	1	松崎 昭三	出 席	7	藤野 香織	欠 席
	2	杉浦 勉	〃	8	松本 禮子	出 席
	3	島田 安三	〃	9	荒川 光明	〃
	4	千葉 有美子	〃	10	久保田 節子	〃
	5	宇津木 昭一	〃	11	野村 孝行	〃
	6	鹿田 明	〃			
農地利用最適化推進委員	担当地区	氏 名	摘 要	担当地区	氏 名	摘 要
	松 山	加藤 周二	出 席	高 坂	木村 正雄	欠 席
		利根川 里美	〃		坂上 夏苗	出 席
	大 岡	大木 幹雄	〃		田口 豊	〃
		橋本 隆	〃	野 本	新井 勝美	〃
		宮永 貞夫	〃		飯嶋 徳造	〃
	唐 子	戸井田 貞義	〃		加藤 喜之	〃
		山田 弘明	〃		山下 哲生	〃
		小澤 謙一	〃			
	議題等	・農地法の規定に基づく諸申請及び届出等の審議の件 ・その他				
公開・非公開の別	公開					
傍聴者数	(会議を公開した場合) 0人					
非公開の理由	(会議を非公開にした場合)					
議 事 参 与 者						
事務局	氏 名	摘 要				
事務局長	松崎 一祐	出 席				
副主幹	小林 裕介	〃				
主 任	福島 誠	〃				

議 案	議 事 顛 末	
議案第 1 号 農地法第 3 条 の規定による 許可申請承認 の件について	1 開 会	副会長は委員の出席が定数に達している旨報告し、開会を宣言する。
	2 議事録署名委員の選任について	議長は署名委員に下記 2 名を選任し、全員これに同意する。 8 番 松本 禮子 委員 9 番 荒川 光明 委員
	3 議 事	<p>議案第 1 号 農地法第 3 条の規定による許可申請承認の件について</p> <p>1 番の申請について 大岡地区・宮永委員より、1 番の申請について、大字大谷在住の申請人（受人）より、大阪府大阪市在住の申請人（渡人）が、大字大谷地内に所有する農地（畑 3 筆）を、受人は農業経営拡大のため、渡人は大阪府に在住し耕作が困難なため、所有権を移転したい旨の申請がなされた。現地調査の結果、申請地は農地として保全管理されている。また、受人の耕作農地は本申請地取得後 30 a を超えており、耕作権が及ぶ農地に関しては、耕作・管理されている状態である。年間の農業従事日数も 150 日を超えていて、許可相当であるとの報告がなされた。 議長は全員に審議を求め、内容審議の結果、これを承認した。</p> <p>2 番の申請について 野本地区・杉浦委員より、2 番の申請について、神明町 2 丁目在住の申請人（受人）より、大字柏崎所在の申請人としての法人（渡人）が、大字古凍地内に所有する農地（田 5 筆）を、受人は贈与を受けるため、渡人は贈与のため、所有権を移転したい旨の申請がなされた。現地調査の結果、申請地は農地としての保全管理が不十分な状態である。受人の耕作農地は本申請地取得後 30 a を超える。年間の農業従事日数は農地取得後 150 日を見込んでいる、との報告がなされた。 久保田委員より、受人は現在経営面積がないようだが、農業従事日数は 150 日を超えるのか、との疑問がなされた。 事務局より、農地取得後の農業従事日数の見込みである旨説明がなされた。 戸井田委員より、農業の実績がなくても許可してよいか、との疑問がなされた。 事務局より、実績がないから不許可とすべきでない旨、県農業会議等に確認している旨説明がなされた。</p>

<p>議案第 2 号 農地法第 4 条 の規定による 許可申請承認 の件</p>	<p>鹿田委員より、渡人である法人の所有農地の状態について質問がなされた。</p> <p>事務局より、耕作はされていない状態である旨回答がなされた。また、今回受人は渡人である法人の代表理事であるが、法人と個人は別人格である旨説明がなされ、そのため、法人である渡人が耕作していないから、受人である法人の代表理事の耕作の見込みがないと判断する根拠にできない旨説明がなされた。</p> <p>島田委員より、本案件に対する重大な懸念は、許可後本当に耕作していくのか、という点だと思うが、それについては取得後の農地の状態で判断するしかないとの意見がなされた。</p> <p>議長は全員に審議を求め、内容審議の結果、多数決にてこれを不許可とした。</p> <p>議案第 2 号 農地法第 4 条の規定による許可申請承認の件について</p> <p>1 番の申請について</p> <p>松山地区・千葉委員より、1 番の申請について、大字東平在住の申請人が、大字東平地内に所有する農地（畑 1 筆）を、長屋住宅に転用したい旨の申請がなされた。現地調査の結果、申請地は農地として保全管理されている。また、住宅の用に供する施設が連たんしている区域で、農地の区域の規模が 10h a 未満であるため第 2 種農地と判断され、長屋住宅の必要性が認められるため、事情やむを得ず許可相当である旨の報告がなされた。</p> <p>議長は全員に審議を求め、内容審議の結果、これを承認した。</p> <p>2 番の申請について</p> <p>高坂地区・鹿田委員より、2 番の申請について、大字早俣在住の申請人が、大字早俣地内に所有する農地（田 1 筆）を、住宅敷地拡張のため転用したい旨の申請がなされた。現地調査の結果、申請地は農地として保全管理されている。また、10h a 以上の一団の農地であるため第 1 種農地と判断されるが、住宅敷地拡張の必要性が認められるため、第 1 種農地の不許可の例外に基づき、事情やむを得ず許可相当である旨の報告がなされた。</p> <p>議長は全員に審議を求め、内容審議の結果、これを承認した。</p>
<p>議案第 3 号 農地法第 5 条 の規定による</p>	<p>議案第 3 号 農地法第 5 条の規定による許可申請承認の件について</p>

許可申請承認
の件

1 番の申請について

松山地区・千葉委員より、1 番の申請について、大字上野本在住の申請人（受人）より、大字東平在住の申請人（渡人）外 2 名が、大字東平地内に所有する農地（畑 2 筆）を、専用住宅の建築のため、所有権を移転したい旨の申請がなされた。現地調査の結果、申請地は農地として保全管理されている。また、10 h a 以上の一団の農地であるため第 1 種農地と判断されるが、専用住宅の建築の必要性が認められるため、第 1 種農地の不許可の例外に基づき、事情やむを得ず許可相当である旨の報告がなされた。

議長は全員に審議を求め、内容審議の結果、これを承認した。

2 番の申請について

松山地区・千葉委員より、2 番の申請について、大字石橋在住の申請人（受人）より、鴻巣市在住の申請人（渡人）外 2 名が、松山町 3 丁目地内に所有する農地（畑 1 筆）を、専用住宅に転用するため、所有権を移転したい旨の申請がなされた。現地調査の結果、申請地は農地として保全管理されている。また、住宅の用に供する施設が連たんしている区域で、農地の区域の規模が 10 h a 未満であるため第 2 種農地と判断され、専用住宅の必要性が認められるため、事情やむを得ず許可相当である旨の報告がなされた。

議長は全員に審議を求め、内容審議の結果、これを承認した。

3 番の申請について

大岡地区・宮永委員より、3 番の申請について、愛知県名古屋市に所在する申請人（受人）としての法人より、幸町在住の申請人（渡人）が、大字大谷地内に所有する農地（畑 1 筆）を、隣地の発電所工場の駐車場として一時転用するため、賃貸借権を設定したい旨の申請がなされた。現地調査の結果、申請地は農地として保全管理されている。また、10 h a 以上の一団の農地であるため第 1 種農地と判断されるが、隣地の発電所工場の駐車場の必要性が認められるため、第 1 種農地の不許可の例外に基づき、事情やむを得ず許可相当である旨の報告がなされた。

議長は全員に審議を求め、内容審議の結果、これを承認した。

4 番の申請について

大岡地区・宮永委員より、4 番の申請について、大字大谷在住の申請人（受人）より、大字大谷在住の申請人（渡人）が、大字大谷地内に所有する農地（畑 1 筆）を、宅地進入路に転用するため、所有権を移転したい旨の申請がなされた。

現地調査の結果、申請地は農地として保全管理されている。また、10h a 以上の一団の農地であるため第1種農地と判断されるが、宅地進入路の必要性が認められるため、第1種農地の不許可の例外に基づき、事情やむを得ず許可相当である旨の報告がなされた。

議長は全員に審議を求め、内容審議の結果、これを承認した。

5番の申請について

唐子地区・荒川委員より、5番の申請について、大字下唐子在住の申請人（受人）としての法人より、大字下唐子在住の申請人（渡人）が、大字下唐子地内に所有する農地（畑1筆）を、資材置場に転用するため、賃貸借権を設定したい旨の申請がなされた。現地調査の結果、申請地は農地として保全管理されている。また、住宅の用に供する施設が連たんしている区域で、農地の区域の規模が10h a未満であるため第2種農地と判断され、資材置場の必要性が認められるため、事情やむを得ず許可相当である旨の報告がなされた。

事務局より、本申請は主に中古の自転車をストックするための資材置場で、除外からの案件だが、申請地も含め、一帯が北側が高く南側に向かって低くなる地形なので、除外の際も雨水や泥の流出についての懸念が指摘された。農地転用の申請にあたり、申請地周辺の住民からも、雨水の流出や土地造成による申請地と南側の農地との高低差が生じることについて、事務局に心配が寄せられた。だが、計画上勾配に沿って最低限の土地造成となっており、また、雨水については敷地内に浸透させるため、資材を置く場所の周辺は砂利敷きとし、雨水を浸透させるようにしている旨追加説明がなされた。

久保田委員より、資材置場から地下に浸透した雨水が、周辺の農地に害を及ぼすおそれはないのか、との意見が出た。

事務局より、雨水が周辺に流出することの対策は確認したが、地下に浸透した雨水の影響については確認していない旨報告がなされた。

議長は全員に審議を求め、内容審議の結果、これを承認した。

6番の申請について

唐子地区・荒川委員より、6番の申請について、加須市所在の申請人（受人）としての法人より、大字石橋在住の申請人（渡人）が、大字石橋地内に所有する農地（畑1筆）を、店舗敷地に転用するため、賃貸借権を設定したい旨の申請がなされた。現地調査の結果、申請地は農地として保全管理されている。また、住宅の用に供する施設が連たんしている区域で、農地の区域の規模が10h a未満であるため第2種農

地と判断され、店舗敷地の必要性が認められるため、事情やむを得ず許可相当である旨の報告がなされた。

議長は全員に審議を求め、内容審議の結果、これを承認した。

7番の申請について

唐子地区・荒川委員より、7番の申請について、鶴ヶ島市所在の申請人（受人）としての法人より、大字石橋在住の申請人（渡人）が、大字石橋地内に所有する農地（畑1筆）を、専用住宅（建売）29棟の建築のため、所有権を移転したい旨の申請がなされた。現地調査の結果、申請地は農地として保全管理されている。また、住宅の用に供する施設が連たんしている区域で、農地の区域の規模が10ha未満であるため第2種農地と判断され、専用住宅（建売）29棟の建築の必要性が認められるため、事情やむを得ず許可相当である旨の報告がなされた。

議長は全員に審議を求め、内容審議の結果、これを承認した。

8番の申請について

高坂地区・鹿田委員より、8番の申請について、大字高坂在住の申請人（受人）より、大字西本宿在住の申請人（渡人）が、大字西本宿地内に所有する農地（畑1筆）を、自己用住宅に転用するため、所有権を移転したい旨の申請がなされた。現地調査の結果、申請地は農地として保全管理されている。また、住宅の用に供する施設が連たんしている区域で、農地の区域の規模が10ha未満であるため第2種農地と判断され、自己用住宅の必要性が認められるため、事情やむを得ず許可相当である旨の報告がなされた。

議長は全員に審議を求め、内容審議の結果、これを承認した。

9番の申請について

高坂地区・鹿田委員より、9番の申請について、大字高坂在住の申請人（受人）より、大字西本宿在住の申請人（渡人）が、大字西本宿地内に所有する農地（畑1筆）を、自己用住宅に転用するため、所有権を移転したい旨の申請がなされた。現地調査の結果、申請地は農地として保全管理されている。また、住宅の用に供する施設が連たんしている区域で、農地の区域の規模が10ha未満であるため第2種農地と判断され、自己用住宅の必要性が認められるため、事情やむを得ず許可相当である旨の報告がなされた。

議長は全員に審議を求め、内容審議の結果、これを承認した。

10 番の申請について

高坂地区・鹿田委員より、10 番の申請について、元宿 2 丁目所在の申請人（受人）としての法人より、元宿 2 丁目在住の申請人（渡人）外 1 名が、大字西本宿地内に所有する農地（畑 2 筆）を、分譲住宅の建築（6 棟）のため、所有権を移転したい旨の申請がなされた。現地調査の結果、申請地は農地として保全管理されている。また、上下水管が埋設されている道路の沿道区域でこれらの施設の便益の享受が可能で、概ね 500m 以内に 2 以上の医療施設が存する区域であるため第 3 種農地と判断され、分譲住宅の建築（6 棟）の必要性が認められるため、事情やむを得ず許可相当である旨の報告がなされた。

議長は全員に審議を求め、内容審議の結果、これを承認した。

11 番の申請について

高坂地区・鹿田委員より、11 番の申請について、深谷市在住の申請人（受人）より、鶴ヶ島市在住の申請人（渡人）が、大字西本宿地内に所有する農地（畑 1 筆）を、自己用住宅に転用するため、所有権を移転したい旨の申請がなされた。現地調査の結果、申請地は農地として保全管理されている。また、住宅の用に供する施設が連たんしている区域で、農地の区域の規模が 10 h a 未満であるため第 2 種農地と判断され、自己用住宅の必要性が認められるため、事情やむを得ず許可相当である旨の報告がなされた。

議長は全員に審議を求め、内容審議の結果、これを承認した。

12 番の申請について

野本地区・杉浦委員より、12 番の申請について、大字高坂在住の申請人（受人）より、大字上野本在住の申請人（渡人）が、大字上野本地内に所有する農地（畑 1 筆）を、自己用住宅に転用するため、所有権を移転したい旨の申請がなされた。現地調査の結果、申請地は農地として保全管理されている。また、住宅の用に供する施設が連たんしている区域で、農地の区域の規模が 10 h a 未満であるため第 2 種農地と判断され、自己用住宅の必要性が認められるため、事情やむを得ず許可相当である旨の報告がなされた。

議長は全員に審議を求め、内容審議の結果、これを承認した。

13 番の申請について

野本地区・杉浦委員より、13 番の申請について、比企郡嵐山町在住の申請人（受人）より、大字上野本在住の申請人（渡人）が、大字上野本地内に所有する農地（畑 1 筆）を、専用

住宅の建築のため、所有権を移転したい旨の申請がなされた。現地調査の結果、申請地は農地として保全管理されている。また、住宅の用に供する施設が連たんしている区域で、農地の区域の規模が 10h a 未満であるため第 2 種農地と判断され、専用住宅の建築の必要性が認められるため、事情やむを得ず許可相当である旨の報告がなされた。

議長は全員に審議を求め、内容審議の結果、これを承認した。

14 番の申請について

野本地区・杉浦委員より、14 番の申請について、大字石橋在住の申請人（受人）より、大字柏崎在住の申請人（渡人）が、大字柏崎地内に所有する農地（畑 1 筆）を、自己用住宅に転用するため、所有権を移転したい旨の申請がなされた。現地調査の結果、申請地は農地として保全管理されている。また、10h a 以上の一団の農地であるため第 1 種農地と判断されるが、自己用住宅の必要性が認められるため、第 1 種農地の不許可の例外に基づき、事情やむを得ず許可相当である旨の報告がなされた。

議長は全員に審議を求め、内容審議の結果、これを承認した。

15 番の申請について

野本地区・杉浦委員より、15 番の申請について、坂戸市在住の申請人（受人）より、大字柏崎在住の申請人（渡人）が、大字柏崎地内に所有する農地（畑 2 筆）を、自己用住宅に転用するため、所有権を移転したい旨の申請がなされた。現地調査の結果、申請地は農地として保全管理されている。また、10h a 以上の一団の農地であるため第 1 種農地と判断されるが、自己用住宅の必要性が認められるため、第 1 種農地の不許可の例外に基づき、事情やむを得ず許可相当である旨の報告がなされた。

議長は全員に審議を求め、内容審議の結果、これを承認した。

16 番の申請について

野本地区・杉浦委員より、16 番の申請について、大字大谷在住の申請人（受人）より、大字古凍在住の申請人（渡人）外 1 名が、大字柏崎地内に所有する農地（畑 4 筆）を、自己用住宅に転用するため、所有権を移転したい旨の申請がなされた。現地調査の結果、申請地は農地として保全管理されている。また、10h a 以上の一団の農地であるため第 1 種農地と判断されるが、自己用住宅の必要性が認められるため、第 1 種農地の不許可の例外に基づき、事情やむを得ず許可相当である旨の報告がなされた。

<p>議案第 4 号 農用地利用集積事業による 利用権設定承認の件</p>	<p>議長は全員に審議を求め、内容審議の結果、これを承認した。</p> <p>17 番の申請について 野本地区・杉浦委員より、17 番の申請について、松葉町 1 丁目在住の申請人（受人）より、大字上野本在住の申請人（渡人）外 1 名が、若松町 2 丁目地内に所有する農地（畑 2 筆）を、自己用住宅に転用するため、所有権を移転したい旨の申請がなされた。現地調査の結果、申請地は農地として保全管理されている。また、住宅の用に供する施設が連たんしている区域で、農地の区域の規模が 10h a 未満であるため第 2 種農地と判断され、自己用住宅の必要性が認められるため、事情やむを得ず許可相当である旨の報告がなされた。</p> <p>議長は全員に審議を求め、内容審議の結果、これを承認した。</p> <p>議案第 4 号 農用地利用集積事業による利用権設定承認の件について</p> <p>議長は事務局に説明を求め、事務局から市の告示決定に先立ち承認を求められている件である旨、また利用権設定の申し出内容が経営面積、従事日数など農業経営基盤強化促進法第 18 条第 3 項の要件を満たしている旨の説明が行われる。</p> <p>内容審議の結果、65 筆の利用権設定を承認した。</p>
<p>議案第 5 号 農用地利用配分計画（案）の件</p>	<p>議案第 5 号 農用地利用配分計画（案）の件について</p> <p>野村議長が利害関係者のため退室したことから、久保田職務代理が議長を代理する。</p> <p>議長は市農政課に説明を求め、市農政課から「農地中間管理事業の推進に関する法律」第 19 条第 2 項に基づき、農地中間管理機構から東松山市に対して「農用地利用配分計画案」の作成を求められたため、同第 19 条第 3 項に基づき、東松山市から農業委員会に意見を聴くよう求めがあった旨の説明が行われる。</p> <p>議長は全員に意見を求め、内容審議の結果、「意見なし」として、これを承認した。</p>
<p>議案第 6 号 引き続き農業経営を行って いる旨の証明願承認の件</p>	<p>議案第 6 号 引き続き農業経営を行っている旨の証明願承認の件。</p> <p>野村会長が、議長を久保田職務代理から交代する。</p> <p>議長は、事務局に説明を求める。</p> <p>1 番の申請について 事務局より、1 番の申請について、新宿町在住の申請人が、新宿町地内にある相続税の納税猶予を受けている特例適用</p>

<p>議案第 7 号 東松山市農業 委員会会長専 決規程の一部 を改正する告 示の件</p>	<p>農地（畑 2 筆）に係る農業経営を引き続き行っていることの証明を求める申請があり、松山地区の委員が現地調査をしている旨の説明がなされた。 松山地区・千葉委員より、現地調査の結果、引き続き農業経営が行われている旨の報告がなされた 議長より、全員に審議を求め、内容審議の結果、引き続き農業経営を行っていることを承認するとした。</p> <p>議案第 7 号 東松山市農業委員会会長専決規程の一部を改正する告示の件について 議長は事務局に対し説明を求め、事務局より変更箇所についての説明が行わる。 議長は全員に意見を求め、内容審議の結果、これを承認した。</p>
<p>報告事案 農業委員会会 長専決規定に よる農地法に 基づく届出報 告の件</p>	<p>事務局報告案件 議長は事務局に説明を求める。</p> <p>農地法第 3 条の 3 権利取得届出報告の件 事務局から説明が行われ、2 件を確認する。</p> <p>農地法第 4 条転用届出報告の件 事務局から説明が行われ、1 件を確認する</p> <p>農地法第 5 条転用届出報告の件 事務局から説明が行われ、7 件を確認する。</p>
<p>その他</p>	<p>農業委員会総会の開催について 次回開催日 令和 5 年 3 月 27 日（月） 午前 10 時 20 分～ 会 場 唐子市民活動センター2 階 大会議室 午前 12 時 23 分議長は今回上程した議案について審議を終了した旨を告げ、令和 4 年度第 11 回総会を閉じた。</p> <p>以上の顛末に相違ないことを証するため署名する。 令和 5 年 3 月 2 7 日 議長 野村 孝行 委員 松本 禮子 委員 荒川 光明</p>